令和７年度入賞作文　優秀賞

ダムが支えるかけがえのない水

砂川市立砂川中学校　三年　羽川　莉子

夏休みも終わりに近づいていたある日、私は新桂沢ダムの管理支所長になった。というのも、昨年度、入賞した作文の副賞の一日管理支所長だ。この新桂沢ダムは、桂沢ダムが治水・利水の機能を満足にできなかったため、嵩上げし、貯水量を増やして令和六年三月に完成したばかりのものだ。

管理支所長になって最初に、担当の方に新桂沢ダムの役割について教えてもらった。

まず、当たり前のように使っている水道水、広大な農地を潤すための農業用水、北海道を代表する石狩湾新港の工場に供給するための工業用水。これらは全てダムで確保されている。ダムは私たちの暮らしに潤いをもたらし、工業の発展を支えているのだ。

また、ダムには私たちや水辺の生物の暮らしを守る役割もある。新桂沢ダムの下流にある幾春別川流域では、かつて、大雨によって、何度も何度も洪水の被害を受け、多くの尊い命を失ってきた。そうした被害をできるだけ軽減することや、雨が少ないと川に水が流れなくなり水辺の生態系が崩れることを防ぐためにダムで流量を調整している。そのおかげで、私たちの安全な毎日が守られているのだ。

実際に所長として、監査廊の点検へ向かった。監査廊の入口の戸を開けると驚いてしまった。なぜなら、監査廊は長くて急な階段の下にあり、外の暑さでは想像できないほど、寒かったからだ。壁を隔ててすぐそこに数千万立方メートルにもおよぶダムの水を感じた。そして、壁や漏水量を点検し、ダムに異常がないか確認した。

その後、ダム湖の水質調査と巡視へ向かった。職員の方と一緒のボートに乗せてもらい、ダムの嵩上げの境目と、ダム湖の水を保全するための仕事を間近で見ることができた。水を守るためにダムに携わる人たちが苦労を重ね、工夫を凝らしていたことに気づけた。

一日の仕事を終えた私は、ダムに携わる人たちのダムや水に対しての熱意に刺激を受けて、ダムと私たちと水の関係について考えた。

ダムの管理支所長をやってみて、ダムは富栄養化という大きな問題を抱えていることがわかった。富栄養化とは、生活排水や工場排水などで栄養塩濃度が高まり、植物プランクトンが増えて水が汚れることだ。富栄養化が進むと水道水や農業用水に悪影響が出てしまう。だが、ダムに携わる人だけでは、この問題は解決できない。だから利用する私たちが協力してダムの水をきれいにする必要がある。

水は有限で貴重なもの。私たちは、水を守るための行動をとるべきだ。例えば、環境に優しい洗剤を使ったり、排水溝に油汚れを流さないようにすることで、水を守ると同時に、先程述べた富栄養化を防ぐことにも繋がる。

限りある水を守るために、先人たちの努力を受け継ぎ、私たちが次の世代へと繋げていく必要があるのだと思う。新桂沢ダムには、ダムに興味を持って学びに来ていた小学生の感想が監査廊にたくさん貼られていた。その小学生のように私たちも、ダムや水の現状を理解し、伝えていくことが大切だ。

私は、ごみ拾いボランティアや学校の授業で水循環について調べたりしている。小さな取り組みかもしれないけれど、いつか大きな結果に繋がると信じ、継続している。

水は、私たちが住んでいる地球の基盤だ。水があることによって、川や山、木などの自然が成り立っている。全部、水によって繋がっているのだ。私たち生物が生きていくうえで欠かせない恵みを、水は与えてくれている。

おいしい農作物が食べられること、水道からきれいな水が出てくること。全て当たり前と思わず、水への感謝を常に持ち続けて、水の恩恵を最大限に活かしていきたい。この大きく豊かな自然に溢れた北海道で、ダムに支えられている水の恩恵を肌で感じながらそう強く思った。